



5



4



8



7



6

- 4 法源寺山門 江戸時代中期のものと思われる四脚門で、道内最古の山門と言われる(国指定文化財)
- 5 法源氏山門から本堂へと続く境内の参道
- 6 「双竜の滝」が流れる法幢寺の庭園。松前城への導水路を兼ねて造られた
- 7 惣門越しに眺める龍雲院の境内。松前で唯一戦禍を免れた最古の寺
- 8 龍雲院本堂の彫刻 戦禍を免れた本堂に残る欄間彫刻(本堂を含む五棟の伽藍が国重要文化財指定)

寺男の機転で 焼けずに残った最古の寺

もう一カ寺、松前の古刹の中でも創建(改築)当時の姿をほぼそのままに留めているのが龍雲院である。公家から興入れされた、七代公広の正室桂子夫人が、長男の栄達を祈って建立したもので、山号・寺号は桂子夫人と長男の戒名に由来している。建立は寛永二年(一六二五年)。本堂と庫裏は天保十三年(一八四二年)に建て替えられたが、戦禍を唯一免れたこの寺は、松前に残る寺院の中でも最も古いものとされている。箱館戦争(戊辰戦争)で多くの寺が焼き払われた中、この寺だけが焼けずに残ったのは、寺男の機転によって難を逃れたからだと言えられる。



10



9

- 9 緻密な彫刻が残る龍雲院惣門の扉(国重要文化財指定)
- 10 龍雲院の鐘楼(国重要文化財指定)



13



11

- 11 松前家御霊屋 戦禍を免れた貴重な仏堂。室内には歴代藩主の位牌が祀られている(法幢寺)
- 12 松前藩主松前家墓所 19代にわたる歴代藩主とその室、子などを祀る55基の墓碑が静かに並ぶ
- 13 松前家墓所へと続く参道。竹林が茂る趣のある風景

「無高の藩でありながら 繁栄を誇った往時を偲ぶ」

日本最北の藩である松前藩。米が取れなかったために「無高の藩」と呼ばれたが、蝦夷地の産物を一手に掌握し、「松前の春は江戸にもない」と言われるほどの繁栄を遂げた。北前船の交易によって上方文化も浸透し、幕府からは北方警備の任を賜るまでに至ったが、幕末動乱期の度重なる戦禍によって町は焼失。多くの寺もまた、藩士によって焼き払われてしまった。現在の伽藍は、その後再建されたものがほとんどだが、焼失を



12